

第3回思川開発事業モニタリング部会 議事要旨

「第3回思川開発事業モニタリング部会」において、第2回思川開発事業モニタリング部会での指摘事項への対応方針と令和7年度モニタリング調査結果等の審議を行った。

主な審議結果は、以下のとおりである。

- 令和6年冬季の水温について、南摩川のダム直下流で高く豊年橋で低下し、南摩川合流後の思川清南橋で再度上昇し清洲橋で低下と、流下に伴い水温が変動している理由について要因を整理することが望ましい。
- ダム直下流の全亜鉛濃度が経月変化していることについて、要因を整理することが望ましい。
- 貯水池のDOとクロロフィルaが上昇している時期とpHが上層で高くなっている時期及び水層が合致していないことから、植物プランクトンの増殖とそれに伴う光合成以外の要因について検討することが望ましい。
- ムカシヤンマ調査について、令和7年に一部の地点で乾燥状態であったことを補足するため、降水量と併せて整理することが望ましい。
- 南摩ダム流入河川の水質観測地点について、代表性の観点から検討することが望ましい。

以 上